

平成三十年度について

いきいき学び課課長 砂川栄秀

若葉が一段とさわやかに感じられる季節となりました。平成二十九年度に地域の方々の多大なご理解とご協力があり、家庭教育支援チームを発足し、一年目から多様な活動を実施することができました。

家庭における子供の教育は、全ての教育の出発点です。家族の絆を通して基本的な生活習慣、豊かな情操、他人に対する思いやりや信頼感、基本的な倫理観、自尊心や自立心の確立など多岐にわたり、人格形成に繋がる重要な役割を担い、家庭は常に子供の心身のよりどころとなる場でなくてはなりません。

本来、家庭の教育を行なう親が、自らの責務を自覚し、家庭教育について

の役割を進めていくのが基本ですが、家庭教育の責任を親だけに負わずではなく、社会全体で子育てを支援し、親が不安を抱くことなく、楽しく家庭教育が出来るように支援を高めることが大切です。そこで、家庭教育支援チームは、子育てをする親のための学習や親子体験講座を実施し、子供の健全育成に役立つ知識の情報提供や技術の習得支援を積極的に行なうことを目的としております

石垣市家庭教育支援チームの平成三〇年度の計画は、石垣市家庭教育の絆（親子・家庭・地域）の拡大と生きる力を目指した活動を計画しております。

- ① 人材養成研修等
- ② 家庭教育ミニ講
- ③ 三世交代流事業（親・子・孫）昔遊び伝承会との協力実施
- ④ 家庭教育講座 石垣島の民話の里めぐりを通じた子育てを学ぶ
- ⑤ 教育講演会（性教育等）の開催
- ⑥ 生涯学習フェスティバルでの体験活動実施
- ⑦ 広報紙発行 年四回
- ⑧ その他、家庭教育の構築に関すること アンケートの実施等

チーム員の横顔 (2)

宮良 安晃



- ◎ 元大川公民館長
- ◎ 昔遊び伝承会副会長
- ☆ 支援チームでの役割 体験講座を担当

☆ 抱負

昔、男の子はズボンのポケットに小刀を持ち歩き、三又の木の枝を削ってゴムカンを作ったり、物干し竿等で竹トンボや凧を作って遊んでいました。

今子供達は部活が盛んで、スポーツや新たなゲームで遊ぶことが多く、昔遊びをする子供を見かけることが少なくなりました。

三世代楽級の開催を機に、竹トンボが元氣よく大空を飛び交うようになりました。船のスクリーン、扇風機風を送る羽根の原理等、子供達との会話が豊富で面白いです。

絆とは人と人との結び付きであり、人との出会いが要件となります。竹トンボ遊びはその切っ掛けに最高です。

生涯学習フェスティバル

展示と体験コーナー

二月十二日に、教育委員会主催の生涯学習フェスティバルが開催され、家庭教育支援チームも活動状況の展示を行なうと同時に、体験コーナーを開催しました。

展示の部には、昨年に実施した昔遊びで学ぶ三世代楽級や、白保中学での性教育講演会の内容、生徒の感想文等を展示し、広報紙の配布も行いました。



体験コーナーでは、竹とんぼの製作と、折り紙遊びを行い、五十人ほどの親子がチーム員の指導で体験を楽しみました。



特に竹とんぼでは、親が熱心に作り方を教わっていて、子供と一緒に楽しんでるのが目につきました。

折り紙では、カエルやさかなを作って、魚釣りを楽しむ姿が目立ちました。ゲーム遊びに馴れた子供達が、歓声を挙げてはしゃいでいる様子は、子供本来の姿を見ているようで、ほほえましい感じがしました。



子育てに関するアンケート

フェスティバルの当日、子育て世代の親子がどのような悩みや問題点を抱えているのかを知るための「子育てに関するアンケート」が実施されました。比較的多かった意見を紹介します。

1. 調査対象人数 三三人
2. 子育てに当り、悩んでいること

(1) 生活習慣

- ・ 食事について
- ・ 好き嫌いが多い
- ・ お菓子ばかり食べる
- ・ 親子でゆっくりする時間がない
- ・ 睡眠等について

(2)

- ・ しつけについて
- ・ ゲーム、スマホ等を長時間する



石垣小PTA親子体験講座

三月十八日に、石垣小学校において親子体験講座が開かれました。

この講座の目的は、昔遊びを通して体験講座を行なうことで、親子のコミュニケーションを促進し、自己肯定感を育むことと、家庭教育ミニ講話を実施し、個々の家庭教育力の向上を図ることにあります。

今回は5学年PTA活動として行なわれたもので、同校の五年生とその父兄約四十人が参加しました。



ミニ講話は支援チームの真謝さんが、「聞」という文字の持つ意味の解説をして、心で聞くことと聞き流すことの違いを説明してくれました。

このあとは、二班に別れて竹トンボと竹笛の製作を行いました。

五年生ともなれば、さすがに呑み込みが早く、要領よく製作が進みました。そして、グラウンドに行って親子で竹トンボの競争をすると、父兄の皆さんもこの時はやはり童心に返って、楽しそうに飛ばしあいをしていました。昔遊びの復活を見ているようでした。





心に響く”ひまば”

得意な運動を活かす為高校へ・

私が中三の年末のある日、担任の先生に運動場の真ん中に呼ばれ、「君は中学を卒業したら何をやるつもりなの？」と聞かれました。私は直ぐに「僕はタコとやー(タコ取り)になります。」と答えました。私は勉強が嫌いで高校へは行きたくなかったのです。

「君は運動が得意だから、高校まで行ってそれをもっと伸ばしてみたらどうかね。」と先生は言いました。勉強しなさい、という言葉は一言もありませんでした。即答できずにいたら、先生の目がだんだんと潤んでくるのが分かりました。それで先生の真剣な気持ちが私にも伝わり、その場で「分かりました。高校へ行きます。」と答えました。その日から受験勉強に励み、そして目出度く高校合格を勝ち取ることができたのです。

生徒を心から思う先生のお陰で、今日の私(高校教師↓村長↓国会議員)があるのです。大事な恩師であり、忘れられない大切な言葉でした。

感謝!感謝!



編集後記

生涯学習フェスティバルでは、支援チーム員がそれぞれの得意分野の持ち場を分担して担当しました。子ども達の歓声が響いて、賑やかなコーナーとなりました。

また、石垣小学校での親子体験講座では、親子が一緒になって遊ぶ様子が見られました。これが本来の家族の姿なのではないかと思ひ、今後の取り組みの方向性が見えてきたように思います。今回から、先輩諸氏から集めた「心に響く言葉」を載せてみることにしました。少しでも子ども達や親子の生き方の参考になれば幸いです。



【編集発行】

石垣市家庭教育支援チーム(希杜南)

希・希望に満ち満ちた未来に

杜・人々に育まれた緑豊かな杜に

南・南ぬ島(ばいぬしま)石垣島より

〒907-0012

沖縄県石垣市美崎町16-6

石垣市教育委員会いきいき学び課

TEL 0980-83-0373

FAX 0980-83-9251